



生誕140年

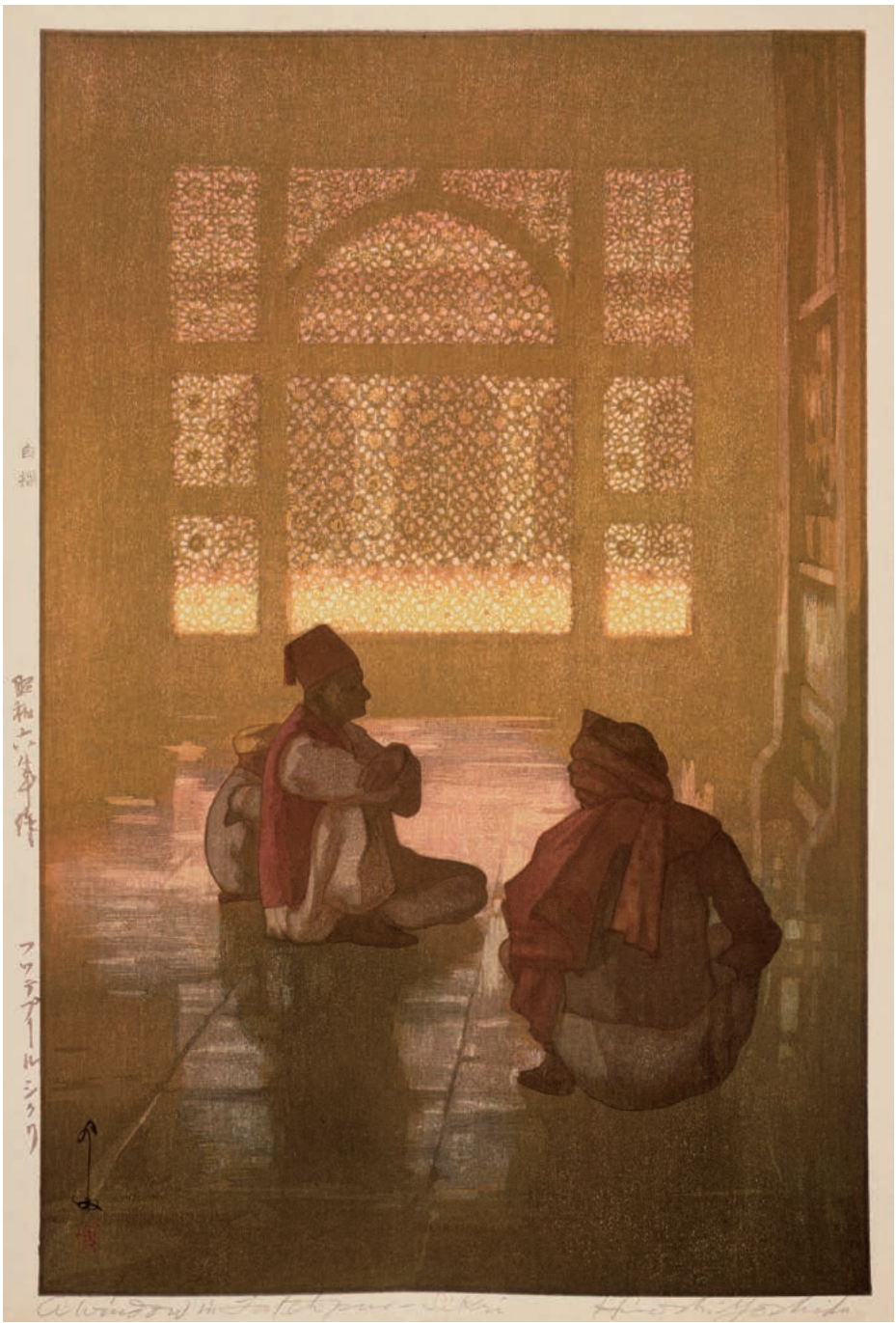
吉田博展

けれども私は自然を崇拜する側に立ちたい

2016年
4月9日[土]
↓
5月22日[日]

開館時間＝10：00～18：00(金・土曜日は20：00まで) ＊入場受付は開館の30分前まで
休館日＝4月25日[月]、5月2日[月]
観覧料＝一般1200(960)円、大学生700(560)円
★ごひいき割引：本展チケット(有料)半券のご提示で、会期中2回目以降の観覧料2割引 ＊小・中学生、高校生、障害者手帳をお持ちの方とその介護者1名は無料 ＊()内は前売り、団体20名以上、市内在住65歳以上の方の料金 ＊前売券は千葉市美術館ミュージアムショップ(3月25日まで)、ローソンチケット(Lコード:33414)、セブン-イレブン(セブンチケット)、千葉都市モノレール「千葉みなと駅」「千葉駅」「都賀駅」「千城台駅」の窓口(5月22日まで)にて販売 主催＝千葉市美術館／毎日新聞社 特別協力＝福岡市美術館 協力＝montbell 協賛＝ニューカラー写真印刷株式会社

千葉市美術館
Chiba City Museum of Art
〒260-8733 千葉市中央区中央3-10-8 TEL 043-221-2311
<http://www.ccma-net.jp>



《フワテバールシクリ》木版 昭和6(1931)年 個人蔵

吉田博(明治9年～昭和25年／1876-1950)は福岡県久留米市の生まれ。京都の地で三宅克己(みやけこっき)の水彩画に感銘を受け、以来本格的な洋画修業を始めました。明治27年に上京して不同舎に入門、小山正太郎のもとで風景写生に励んで技を磨きます。明治32年には中川八郎とともに渡米、言葉もままならない異国で自作を大いに売って生活の資を得るという快挙をなし、アメリカ各地からロンドンやパリを巡って明治34年に帰国しました。以後も外遊を重ねて東西の芸術作法を見つめ、内外の風景に取材して水彩画や油彩画を発表、太平洋画会や官展を舞台に活躍を続けました。

とりわけ高山を愛し、常人の足の及ばぬ深山幽谷に分け入ることで描いた作品は、新たな視界や未知なる美を発見した驚きと喜びに満ちています。大正後期からは彫師・摺師と組んだ木版画に軸足を移し、伝統的な技術に洋画の表現を融合したかつてない精巧・清新な造形で国内外の版画愛好家を魅了し続けました。

吉田博は生涯、世界における自らの位置を考え続けた画家といつてよいでしょう。その思考の跡が、湿潤な日本の風景をみずみずしく描いた水彩画であり、雄大な自然美を登山家ならではの視点からとらえた油彩画であり、浮世絵以来の技術を新解釈した木版画でした。比較的早くに評価の定まった白馬会系の絵描きたちに比し、長く埋もれてきた感のある博の画業は、今の私たちにどう映るでしょうか。「絵の鬼」と呼ばれ、水彩で、油彩で、木版画で世界に挑み続けた画人の「これが日本人の洋画だ」という答え――。生誕140年を記念し、代表作に初公開の写生帖などをあわせた300点超の作品からなるこの大回顧展で、とくにご覧ください。

※会期中に展示替を行います。

- 1 《新月》水彩
明治40(1907)年 東京国立近代美術館蔵
- 2 写生帖より(中国)
昭和13-15(1938-40)年 個人蔵
- 3 《竜坂》水彩
明治27-32(1894-99)年 静岡県立美術館蔵
- 4 《エル・キャピタン》木版
大正14(1925)年 千葉市美術館蔵
- 5 《朝霧》水彩
明治34-36(1901-03)年
福富太郎コレクション資料室蔵
- 6 《穂高山》油彩
大正期(1913-26) 個人蔵
- 7 写生帖より(インド)
昭和6(1931)年 個人蔵
- 8 写生帖より(駒ヶ岳山頂からの眺め)
昭和2(1927)年頃 個人蔵
- 9 《急降下爆撃》油彩
昭和16(1941)年 個人蔵
- 10 《瀬戸内海集 光る海》木版
大正15(1926)年 個人蔵
- 11 《雲叡深秋》油彩
明治31(1898)年 福岡市美術館蔵
- 12 《雲海に入る日》油彩
大正11(1922)年 個人蔵



関連ワークショップ

①「春の色をかさねる —オリジナルブックカバーづくり—」(事前申込制)

4月23日(土)／14：00～／
11階講堂にて／定員20名／
参加費800円／対象 小学4年生以上

透明水彩と不透明水彩、筆刷と版画、
それぞれの特徴に触れながら制作します。



②「からだを変えろ・風景が変わる」(事前申込制)

講師：ペビン結構設計

4月29日(金・祝)／11：00～／11階講堂・美術館周辺にて／
定員20名／参加費1500円(昼食代込み)／対象 小学生以上
からだの感覚を変化させるエクササイズの後、お弁当とふしぎな「指示書」を持ってまちへ出かけます。演劇の手法を使い、普段とは違うからで風景を再発見する、ピクニック型ワークショップです。

※小学3年生以下の方は、保護者と一緒に申込みください。

【申込方法】 往復はがきまたはホームページからお申込みください。
往復はがきの場合は、郵便番号、住所、電話番号、氏名、参加希望のイベント名、参加人数(2名までお申込可)、参加者の年齢を明記の上、「〒260-8733 千葉市中央区中央3-10-8 千葉市美術館 イベント係」まで
※申込締切：ワークショップ① 4月13日(水)必着
ワークショップ② 4月19日(火)必着

※お申込みは1つのイベントにつき1通、申込多数の場合は抽選
※当館ホームページで詳細をご確認の上、お申込みください。



[交通案内]

○JR千葉駅東口より徒歩約15分／バス乗り場⑦より京成バス大学病院行または南矢作行にて「中央3丁目」または「大和橋」下車徒歩約3分／千葉都市モノレール県庁前方面行「霞川公園駅」下車徒歩約5分

○京成千葉中央駅東口より徒歩約10分

○東京方面から車では 京葉道路・東関東自動車道で宮野木ジャンクションより木更津方面へ、貝塚IC下車、国道51号を千葉市街方面へ約3km、広小路交差点近く

※千葉市中央区役所と同じ建物です。

※地下に区役所と共有の機械式駐車場がありますが、混雑時にはご不便をおかけすることもありますので、公共交通機関での来館をお願いします。

千葉市美術館 Chiba City Museum of Art

〒260-8733 千葉市中央区中央3-10-8
Tel.043-221-2311(代) Fax.043-221-2316
http://www.ccma-net.jp

関連企画

[講演・講座]

オープニング記念講演会

「吉田博・その人と芸術」

講師：安永幸一(元福岡市美術館副館長)

4月9日(土) 14：00～(13：30開場予定)

11階講堂にて／先着150名／聴講無料

講演会「吉田博の自然観と木版世界」

講師：吉田司(版画家／吉田博令孫)

5月3日(火・祝) 14：00～(13：30開場予定)

11階講堂にて／先着150名／聴講無料

講演会「吉田博のアメリカ開拓精神」

講師：吉田亜世美(アーティスト／吉田博令孫)

5月15日(日) 14：00～(13：30開場予定)

11階講堂にて／先着150名／聴講無料

同時開催

所蔵作品展

「四季のうつろい・時のうつろい」

※「生誕140年 吉田博展」をご観覧の方は無料

次回展予告

所蔵作品展

「ふたつの柱

—江戸絵画／現代美術をめぐる—

6月1日(水)～6月26日(日)

「河井寛次郎と棟方志功

日本民藝館所蔵品を中心に」

7月6日(水)～8月28日(日)